

# スポーツ 社会を変える

2020年東京五輪・パラリンピック開催に向けて、スポーツを通じた国際支援活動を公約した日本。スポーツを通じて途上国社会の変革を目指してきたウィルフリード・レムケ氏。草の根の人材育成が持続的な成果を生む力だと語る。

(聞き手 結城和香子)

編集委員が迫る

## 国連事務総長特別顧問

### ウィルフリード・レムケ氏



サッカーの独ブンデスリーガ、SVベルター・ブレメンのゼネラルマネジャーを18年務め、ブレメン市のスポーツや教育担当も歴任した。2008年、開発と平和のためのスポーツ支援を担当する国連事務総長特別顧問に任じられた。67歳。

#### リーダーを作る

東京は招致公約で、スポーツを通じた国際支援プロジェクト「Sports for Tomorrow」を打ち出した。途上国の体育カリキュラム策定支援や指導者派遣が軸だという。その時に大切な視点とは何か。

「指導者と用具を現地に送り、スポーツを教えるだけの従来型のプログラムでは、予算切れと同時に活動も終わり、後には何も残らないこと

が多い。私に言わせると、これではお金を燃やすようなものだ。どうやって活動を浸透させ、持続させるのか。それには現地の人々、特に若者に、核となる情熱を持ったリーダーを育てることがポイントだ」

「カイロで行われた女子卓球のプログラムが、予算がなくなった途端に廃れてしま

い、2年後には政府関係者さえもその存在を忘れてしまっていた、という体験をした。一方、我々が2012年に開いた『ユース・リーダーシップ・キャンプ』で卓球の面白さを知ったウガンダの若者が、学校で古い木のテーブル

を使い子どもたちに教え始めた。卓球台1台分の資金4000円を提供すると、その若者は仲間と町まで台を買いに行き、トラックに載せて2000キを『凱旋』する騒ぎになったという。子どもたちは『ウガンダのチャンピオン』を目指し練習に励み、しまいには国際卓球連盟までがその活動を支援するようになった。柔道でも何でも、現地に情熱が生まれなくては活動は根付かない」

## 人間教育の大切な素地

#### ■ 普通の面白さ

「スポーツを通じた平和の促進。今の日中、日韓の関係改善にも有効だと考えるか。

「もちろんだ。ただ最初の一步は難しい。双方の政府の容認や支援も必要となるから

だ。しかし、韓国で開かれたキャンプに北朝鮮の若者が参加したように、小さいが意義のある一步を踏み出すことはできる。コミュニケーション

は、戦争を防ぐ最善の手段だ」

#### ■ 明白な価値

「触媒として、なぜスポーツが有効なのか。

「草の根レベルのスポーツは、工夫すれば最低限の用具でも実施可能だし、誰もが面

面を含むアジア・アフリカ14か国から30人が参加し、約10日間にわたり柔道や水泳などのスポーツを体験、スポーツを通じてどう子供たちの身近な模範となる存在を作り、差別を緩和し、人々を統合するかを学び、意見を交換し合う。被災地も訪れる」

「スポーツは慣習という壁を破り、差別を超える力を持つ。その狙いはキャンプ参加者の選抜方法にも生かしている

#### ■ 東京で初キャンプ

国連開発と平和のためのスポーツ事務局(UNOS DP)は、スポーツを通じて

社会を変えることを目的にしている。今月その「キャンプ」を東京で開催した。

「我々の活動の主眼は五つ。アフリカを軸とした途上国の開発支援、若者のリーダーの育成、女性や障害を持つ人々への差別との闘い、平和の促進だ。それにはスポーツが触媒として大いに役に立つ」

「2年前に始まり、今回は8度目となるキャンプは、日本では初開催だ。今回は日本

を白きを理解できる普遍性があるからだ。スポーツは人間教育としても多くのことを教えてくれる。人は自分のエゴだけで動けば周囲に受け入れられにくい。スポーツを通じて仲間への尊重やチームワークを早期に身につけることが、大切な素地となる」

## 「宣言より行動」参考に



人を変えることが社会を変え、長期的な影響力を持つ改革を呼ぶという。途上国の開発でも、五輪・パラリンピックのレガシー(遺産)でもそれは同じだ。ただ、人や社会に変化というのは、簡単に数字で示すことができない。だからスポーツの社会的価値が、大きな潜在力を持っている。勝る、風穴を開けるためには「宣言より行動。高い理想と地道な行動力。日本がスポーツを通じた国際支援を考える時、人材育成と実践を第一義とする、レムケ氏の信念は参考になる。(結城)